

大杉 中1

群をめざして 佐々里峠から芦生杉の巨木へ



史を研究するグループ」は広瀬さんの説明を聞きながら芦生の森を探索しました。生徒たちは熱心にガイドさんの話を聞き、メモやカメラで記録をとっていました。美山町と京都市左京区の境となる尾根を2時間ほど歩き「雷杉」に到着しました。「雷杉」は雷に撃たれて幹の中が空洞になりながらも生き続けている杉の大木で、その生命力には驚かされます。雷杉の廻りで昼食をとった後、芦生杉の巨木を目指して急な斜面を降りていきました。芦生の森で最大級の芦生杉の前で記念撮影を

し、生徒は手を繋いで巨大杉を囲み、その大きさを実感していました。尾根伝いの起伏あるハードな行程でしたが、全員が芦生杉の巨木までを元気に往復し14時30分に佐々里峠に帰ってきました。

生徒は事前学習、フィールドワークで学んだことを、1班「長い年月・大きな知恵」、2班「芦生の森と人」、3班「芦生の自然」、4班「木地師の生活について」をテーマにまとめ7月19日のアンビシャスタイムで二つの班が、2・3年生を前に発表しました。



生徒たちの学校生活の様子を
ホームページでもご覧ください



新緑の眩しい5月25日、中学1年生は芦生の森フィールドワークに出かけました。五月晴れの好天に恵まれ、佐々里峠を9時45分に出発し京都大学芦生研究林にある芦生杉の巨木群に向かいました。芦生もりびと協会のネイチャーガイドの広瀬慎也さん、前田敦子さん、鹿取悦子さんに案内していただきました。生徒は研究テーマごとに4班2グループに分かれ「芦生の生物を研究するグループ」は前田さん、「芦生の歴



芦生の森フィールドワーク事前学習

5月9日、芦生の森フィールドワークの事前授業として芦生もりびと協会ネイチャーガイドの長野敏さんに芦生の森についてお話を伺いました。芦生の森の生態系や芦生の固有種など貴重な植物、生息する動物のことや、芦生の森で暮らしていた木地師のことなど歴史的なお話も伺いました。また、福井県の原子力発電所の建設に伴い芦生の森にダム建設が計画されたが、芦生の森の大切さが認識されて中止になった経緯など興味深いお話でした。



地域道徳とは…？

南丹市では地域とともにある学校づくりを通して、子どもたちの学びと大人の学びをともに進めています。美山学では特に、非認知能力と呼ばれるようないわゆる生きる力を身につけることを目指しています。道徳的な考え方はそういった力のひとつと言えます。

美山小中学校の地域道徳では地域や家庭、学校がともに道徳の学びを推進するため、授業参観の取組で機会を設けました。今回の取組は、昨年度末に延期となった内容を少し変更して、UNWTO(国連世界観光機関)ベストツーリズムビレッジに美山町が選定されたことから、参加者が一緒に地域の魅力を考えアイデアを出し合うことで、地域道徳と熟議のコラボを実現しました。



美山の観光と食をテーマに
地域の方(大人たち、保護者含む)と子どもたちが一緒に考える！

地域道徳 熟議コラボ編

地域みんなで美山の子どもたちの未来を考えるワークショップ

はじめに美山観光まちづくり協会から事務局長の高御堂和華さんに「ベストツーリズムビレッジ」に選ばれた美山町が目指す観光やまちづくりについてお話をきかせていただきました。

当日、会場には小学校6年生とその保護者の皆さん、地域から観光事業者、まちづくりに関わる皆さん約20名の参加をいただ

き、総勢約70名が10個のグループに分かれてワークショップを行いました。

6年生は昨年度の3学期、美山の観光産業をテーマに学習した際に自分たちで美山の旅行モデルプランを作成していました。まずはそれをグループごとにプレゼンすることから始め、それをもとに、美山の魅力、一番伝えたいこと、大切にしたいこと、自分たちにできることなどテーマを絞って話し合いました。

このワークショップでは、大人も子どもも、ひとりひとりが自分の意見を出し合い、互いの意見に耳を傾け、交流することを大切にしました。異年齢、立場の異なる人たちの、さまざまな意見に触れることで、子どもだけでなく参加した大人も、ともに学ぶことができるのが地域道徳の良いところです。

また、子どもたちにとって、地域の大人の方と対等な立場で自分たちの意見を出し合っ、交流、協議できたこの経験には、ひとつの成功体験としても、道徳的な感覚を育むうえでも大きな意味があり、とても大切な時間になりました。今後こういった機会を多く作って行きたいと思います。

こんなに多くの地域の方や保護者のみなさんと子どもたちが一緒に意見を交流しました！